



生協創立70周年記念 第1回スポーツ吹矢交流大会(2025年10月)
新病院移転10周年・生協創立70周年 病院祭 ～きらめき祭～(2025年10月)



th
1954~2025

創立70周年記念誌 地域に根ざして



利根保健生活協同組合

目次

創立70周年記念誌「地域に根ざして」発刊にあたって

利根保健生活協同組合 理事長 大塚 隆幸

思い出のアルバム	1
-----------------	---

70年のあゆみ

1954年～2025年	8
-------------	---

支部紹介

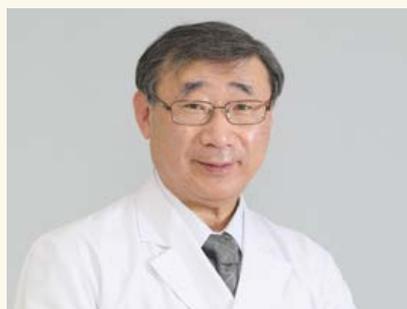
沼田東支部	34
沼田中支部	35
沼田南支部	36
沼田北支部	37
池田支部	38
利根北支部	39
利根南支部	40
片品支部	41
川場支部	42
利南支部	43
白沢支部	44
昭和東支部	45
昭和南支部	46
沼田西支部	47
薄根支部	48
川田支部	49
高山支部	50
月夜野東支部	51
月夜野西支部	52
水上支部	53
猿ヶ京支部	54
須川支部	55
新巻支部	56

資料編

利根保健生協年度別現勢	57
編集後記	58

創立70周年記念誌「地域に根ざして」 発刊にあたって

利根保健生活協同組合
理事長 大塚 隆幸



利根保健生活協同組合が創立されてから70周年の節目を迎えられたことを組合員の皆様と共に歡びたいと思います。

地域の皆様が「おらが診療所」を持ちたいという志が結集して、1954(昭和29)年4月1日に利根中央診療所が開設されました。そして「おらが病院」(利根中央病院)が1962(昭和37)年に85床でスタートしました。その後も組合員の皆様の後押しを受けて病院は拡張を続け、1988(昭和63)年に最大340床になりました。当2次医療圏の災害拠点病院に指定され、新・医師研修制度の医師養成も開始して順調に医療・介護活動を行っていました。

ところが、2009(平成21)年から存続さえ危ぶまれるような厄災が当生協に降りかかりました。大学医局からの派遣医師の大幅減員を皮切りに医科医師の退職なども相まって、2008年に59名いた当生協の医師が2011年には34名まで落ち込みました。離職した職員もいて、職員は増加した現場の仕事を支えつつ「どうなってしまうのか」という不安が入り混じって疲弊していました。そのような混乱の中で一筋の光と希望や力を与えていただいたのが、他ならぬ組合員の皆様の熱意でした。全日本民医連からの常時5人の医師派遣とともに、皆様の暖かい叱咤激励が私たち職員に心の拠り所を与え、地域の医療介護に精進することが唯一の生き残る道だということを悟らせたのです。しかし、再生への光は見たものの苦難の状況は数年続きました。これを打破する方策として医師をはじめとした職員の研修に力を注ぎ、働く仲間を増やすことを目標に掲げました。県内の医療生協の協力があって、県内民医連の医師研修プログラムを一本化することができて充実しました。それまでは初期研修を終了した医師が後期研修や就職先として当院を選ぶことがほとんどなかったのが、2016(平成28)年からは選んでいただけるようになりました。そのこともあって、新病院を開設した60周年の2015(平成27)年は42名だった医科医師が70周年の2025(令和7)年には76名となりました。

60周年の2014年からの10年間にも様々なことが起こりました。2020(令和2)年2月に新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)が日本に上陸しました。初期のコロナは毒力が強く全国では死亡事例が相次ぎました。同年4月に利根中央病院が受け入れたコロナ患者から職員が2次感染して、3週間を超える医療業務の縮小を余儀なくされ、経営損失は2億円を超えました。当生協の甘い管理体制に対してお叱りを方々から受けましたが、落ち込んでいた私たちを立ち直らせたのはまたも組合員の皆様からの熱いメッセージでした。そしてこの時に組合員の皆様からいただいた信頼が何よりも貴重な財産になり、「お金は失ったが信頼を得ることができた」と胸を張ることができました。2022年2月からロシアのウクライナ侵攻が始まり、コロナと相まって医療品・医薬品の流通に支障がでました。また、夏の猛暑がしばしば深刻になり、利根沼田地域でもエアコンなしでは熱中症になる危険が高まりました。また、少子化と労働人口の減少の影響がいよいよ顕在化してきました。さらに、2025年は熊による人身被害が利根沼田地域でも頻繁に起こり、戻りかけた人々の外出機会がまた減りました。

このような環境にも関わらず、組合員皆様の情熱と行動は衰えませんでした。健康班会、サロン、ブロック活動、健康まつりなどの集りやフードドライブ、親子農業体験などの催しものに積極的にとりくんで頂けました。当生協と沼田市や周囲の町村との間に地域見守り協定を締結したこともあり、行政や多団体との交流も広めて頂きました。

当生協の組合員数は2万8千人を超え、出資金も15億円を超えるご厚志をいただき、医療介護の人員や設備などを充実させていただいています。組合員の皆様の御期待と御声援が当生協の原動力になっていることは昔も今も変わりありません。これからも、皆様のお声に耳を傾けながら医療介護に邁進したいと存じます。

今後も組合員の皆様の御協力と御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

2026年2月

利根保健生活協同組合の理念

健康をつくる。平和をつくる。こころ豊かなまちをつくる。

－そのために－

私たちは、組合員・地域住民と医療や福祉の専門家が協同する組織です。

「あって良かった利根保健生協」をめざし、事業と運動を発展させ、

「つながる・つなげる」を合言葉に、多くの人たちと手をむすび、

健康で豊かなまちづくりをすすめます。

1. 安全で質の高い医療・介護・福祉と保健予防サービスを提供します。
2. 全世代が参加できる、地域まるごと健康づくりにとりくみます。
3. いのちを脅かす戦争に反対し、憲法をまもり、平和と人権を大切にします。
4. 未来を担う子どもたちが健やかに成長できる地域づくりに貢献します。
5. 一人ひとりを大切に、安心してらせるまちづくりをすすめます。
6. 地球環境保全のために、自然を守り、エネルギーを大切にします。

2019年6月22日

利根保健生活協同組合 第43回通常総代会



組合員ホールきらめき「ヨガ教室」(2015年)



闘魂外来&闘魂祭(2015年)



赤ちゃん同窓会(2016年)



小学校で「手洗い教室」を初開催(2017年)



医療講演&懇談会 102人参加(2017年)



医局ふるまい会(2018年)



組合員参加で人生会議研修会(2019年)



長野県河川冠水 DMAT活動(2019年)



新型コロナウイルス陽性者の受け入れ(2020年)



感染予防対策で毎日院内を定期的に消毒(2020年)



コロナ禍でも工夫した看護体験(2020年)



臨床研修報告会(2021年)



片品川水害被害想定訓練(2022年)



沼田高校慰問院内コンサート(2023年)



能登半島地震災害支援 第1陣帰着(2024年)



サンタバイクがチャリティ慰問(2024年)

利根歯科診療所・生協みなかみ歯科



利根歯科診療所 こども歯の保健教室(2018年)



生協みなかみ歯科 こども歯の保健教室(2018年)



歯科班会「呼気圧チェック」(2021年)



コロナ禍 感染防護装備で診療(2021年)



生協みなかみ歯科 地域訪問(2022年)



臨床研修施設学習講演会(2023年)



親子農業体験 保健教室「お口の健康」(2023年)



生協みなかみ歯科 利用委員花植え(2025年)

片品診療所・利根中央診療所・とね訪問看護ステーション



まちかど健康チェック(2017年)



利根中央診療所 地鎮祭(2017年)



利根中央診療所 内覧会(2017年)



片品支部総会 笑いヨガ(2019年)



東部ブロック交流会 片品診療所見学(2019年)



利根中央診療所 コロナウイルス検査(2023年)



片品診療所 インフルエンザ予防接種班会(2025年)



とね訪問看護ステーション 在宅で安心して療養できるよう看護・リハビリを提供(2025年)

介護老人保健施設とね・サニーホームひまわり



サニーホームひまわり開設(2016年)



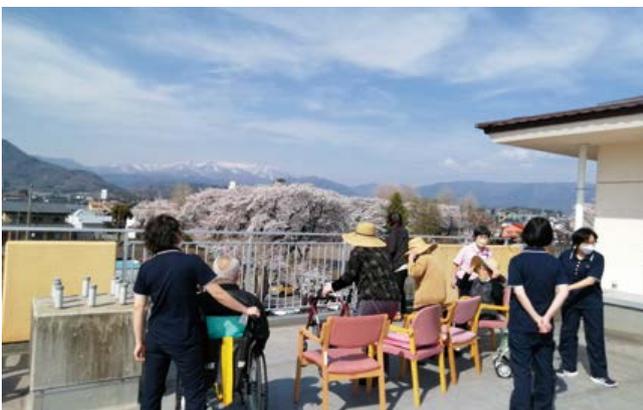
老健とねまつり(2017年)



老健とね通所リハビリ(2020年)



デイサービスひまわり(2020年)



老健とね屋上でお花見(2022年)



サニーホームひまわり夏まつり(2022年)



介護職員初任者研修(2022年)



サニーホームひまわり内覧会(2025年)

組合員活動



戦後70年目の国民平和大行進(2015年)



「沼田西支部合同班会」手作りダンベル(2016年)



保健組織活動交流集会でみそ汁試飲(2017年)



くらしと健康まつり(2018年)



第33回囲碁大会(2018年)



「月間スタート集会」高原列車を大合唱(2019年)



組合員ホールきらめきで機関紙梱包作業(2020年)



薄根支部「生協強化月間」地域訪問(2021年)

組合員活動



沼田北支部 シトラスリボンを沼田市へ寄贈(2021年)



月夜野西支部 ボトルキャップをみなかみ社協へ寄付(2021年)



「第1回医療・介護の懇談会」寸劇(2022年)



諏訪狭紅葉散策(2023年)



「スポーツ吹矢」段位試験(2023年)



福島被災地視察(2024年)



西部ブロック 栃木保健医療生協へ研修旅行(2024年)



中央ブロック 柳波まつりで沼田市と合同出店(2025年)

1954～59 昭和29～34年



利根中央診療所開設当時の医療スタッフ
前列左から戸井田所長、岩井医師
後列左から岡田・星野看護師



利根中央診療所の建物(1957年頃)
元保健所庁舎が診療所に転用された



利根沼田におけるお産を改善させた
産婦人科・佐藤力医師
(後、利根中央病院初代院長)



各地で開催された座談会(1959年頃)



創立5周年記念祝賀会(1959年)
沼田小学校講堂で開催され、演劇なども催された

1953年	5月	以前から相談の進んでいた「利根消費生活協同組合」設立の準備活動が再開される。
1954年	3月	清水町でアカギ美容室、下之町でアカギ理容所を運営した利根消費生活協同組合設立準備会が設立趣意書を作成し、創風洋裁学院として使用されていた元保健所庁舎に診療所を設置する計画が立てられる。
1954年	4月	内科・小児科・外科の12床の有床診療所、利根中央診療所が開設される。所長はハルビン 哈爾濱医科大学元教授の戸井田登医師。内科・小児科を戸井田所長が、外科を岩井貞次郎医師が担当する。看護婦は星野淑子、岡田ますえ。金子春吉事務長。組合員約100世帯、出資金7000円。開設資金200万円の返済に苦しまされる。
	6月	経営形態をめぐって内部討議が起こる。既定方針通り生協組織で進めることを決定する。金子春吉が事務長を辞任し、小泉初男が事務長となる。
	11月	群馬県保険課、厚生課保険監査よりカルテ記載不備を指摘され、八万円あまりの過剰請求がされていたことが発覚する。
1955年	3月	カルテ記載不備の件により、戸井田所長が引責辞任する。前橋協立診療所所長の佐藤正二医師が利根中央診療所所長を兼任する形となる。岩井医師を中心とした診療体制が組まれる。
	5月	経営が小康状態となり、賃金遅配が解消する。
	8月	桐生協立診療所より支援資金を借り入れる。
	9月	日本国民救援会、朝鮮総連よりそれぞれ支援資金を借り入れる。
1956年	3月	佐藤力医師が着任。産婦人科が開設され患者が急増する。
	4月	開設二周年記念の祝賀会を開催する。
	9月	群馬県労働者生活協同組合が発足する。東海林稔理事長。
	10月	帝王切開術を開始する。利根沼田地域で帝王切開術による分娩が可能となる。
	11月	利根消費生活協同組合設立総会を開催し認可申請書を群馬県に提出する。
	12月	群馬県厚生課より「申請しても認可が下りる可能性は乏しい」と回答を受ける。
1957年	3月	岩井医師が発病し休職となる。
	4月	生協設立総会を開催するが、医療事業のみを行う生協は認められないと申請を却下される。群馬県労働者生活協同組合への合併案がまとめられる。
1958年	3月	病棟増改築のため建物を一部解体する。
	4月	群馬県労働者生活協同組合傘下の経営となる。 増改築の結果19床となり、皮膚科を開設する。内科・小児科・外科・産婦人科の各科選任医師体制が確立し、胃切除などの新たな医療が行えるようになる。組合員も600世帯となるなど発展する。
	6月	群馬県労働者生活協同組合の総代会で合併が承認される。
1959年	5月	玄関、事務室、薬局、待合室の改造工事を行う。
	6月	第1回組合員総会(後の役員総会)が行われる。利根中央診療所運営委員会が発足し、林金衛氏が委員長に就任する。
	8月	利根・沼田各地に世話人を委嘱、各地で座談会を開催する。組合員が拡大する。
	9月	岩井貞次郎医師が退職する。
	10月	世話人総会が開催される。組合員総数が2500世帯となる。

1960～69 昭和35～44年



第一期工事で完成した病院の建物(1962年)
東原新町に開院した



利根中央病院落成式を行う(1962年)



小児麻痺闘争(1960年)
生ワクチン輸入を求める署名活動を行う



新潟地震の救護活動(1964年)
新潟地震の救護班として職員を派遣する



天津市友好使節団を出迎える(1964年)
群馬民医連が招待した友好使節団と交流する



創立15周年の記念演芸会(1969年)
芸達者が集まりにぎやかに開催する

1960年	4月	診療所運営委員李(中島)圭太氏の朝鮮帰国歓送会が行われる。
	5月	第2回役員総会で総合病院建設計画が立案され病院建設債を発行する。
	6月	機関紙「利根の医療」を創刊する。病院の用地買収が開始される。
	9月	沼田市議会社会常任委員会と懇談を行う。
	11月	小児麻痺ワクチン輸入運動を行う。病院用地として600坪の土地を契約する。
1961年	4月	医療金融公庫貸付最高限度額にあたる2000万円の融資が決定する。
	5月	第3回総代会を開催する。病院建設委員会が結成される。
1962年	3月	利根中央病院第1期工事の落成式を行う。
	4月	利根中央病院85床を開院し佐藤力医師が院長に就任する。利根中央診療所は東倉内診療所と改称する。
	6月	交換輸血第一号に成功する。
1963年	1月	本邦三例目となる新生児先天性横隔膜ヘルニアの手術に成功する。
	10月	佐藤力院長が退職し、菊池幸雄医師が院長に就任する。厚生医療機関の指定認可を受ける。沼田市高橋場町、月夜野町真庭で集団検診を行う。
1964年	5月	群馬民医連の招待で中国天津市友好使節団が来訪する。
	6月	新潟地震に救護班を派遣する。
	7月	利根沼田生活と健康を守る会を結成する。
	8月	日本生協連医療部会第1回組織研修会に参加し、鶴岡生活協同組合(山形県、現生活協同組合共立社)の班会を見学する。
	9月	創立10周年祝賀会を行う。
	10月	関東民医連主催の利根地方会議を開催する。
1965年	2月	荒川生活協同組合(現東京ほくと医療生活協同組合)の班活動を見学する。
	4月	振動病(白蟻病)の実態調査を行う。
	9月	各地域で班長世話人会議を開催する。集団検診、血液型登録、破傷風予防運動を行い、以後破傷風の地域発生数がゼロになる。
1966年	1月	有機溶剤中毒の実態調査を行い、特殊検査を実施する。
	4月	病院の第二期建設が竣工し、病床数165床となる。精神科外来を開始する。東倉内診療所が閉鎖される。老人と乳幼児の医療費無料化運動を行う。
	5月	沼田ダム反対共闘会議を結成する。
1967年	3月	国立沼田病院閉鎖反対の署名1380筆を集める。増資運動で脳波計を購入する。
	6月	国民健康保険税の値上げ反対と健康保険改悪反対の意見書を提出する。
	7月	班表彰第一号として、月夜野町後閑上河原の後閑第1班が表彰される。
	8月	羽越水害で被災した新潟県北部地域の救護に看護師を派遣する。
1968年	6月	増資運動で自動血球計算機を購入する。
	8月	「生協だより」を創刊する。血液保冷库を購入し、供血体制に活用する。
1969年	1月	「利根の医療」いろはカルタを制作する。
	4月	消化器外来を開設。肝生検や腹腔鏡検査を開始する。
	9月	創立15周年記念集会を開催し、組合員の演芸が披露される。
	11月	川場村で役員研修会を開催し7箇所の班会を見学。ファイバースコープを導入する。
	12月	県下三台目となるX線テレビ装置を設置し、自動現像装置を導入する。

1970～79 昭和45～54年



利根保健生活協同組合創立総会(1976年)
労働者生活協同組合から独立し組合を設立する



岩手県沢内村の見学(1971年)
沢内村の先進的な保健活動を学ぶ



第一期保健大学(1974年)
保健大学で養成された保健委員が
各地で健康づくり活動を推進する



各地で開催される班会
保健委員の協力により自主的な健康管理運動が進む



創立25周年記念映画「健康をほりおこす人々」(1979年)
保健委員らによる保健活動を題材に自主映画を制作する



創立25周年記念健康ランニング講習会(1979年)
群馬大学の山西哲郎助教授を招き開催する

1970年	5月	勢多郡北橋村と赤城村の老人福祉の実情視察を行う。
	11月	第12回定期役員総会で、救急医療確立と老人医療無料化を求める決議を行う。
1971年	3月	病院4階の増築を行い、病床数が177床となる。エレベーターを設置する。
	7月	医療危機突破決起集会を開催。羊水栓塞症の母子を救命する。
	10月	第13回定期役員総会を開催し、独立医療生協化を討議する。
	11月	地域ぐるみでの保健活動を学ぶため、岩手県沢内村(現西和賀町)を見学する。
1972年	1月	前置癒着胎盤の母子を救命する。
	2月	利根保健生活協同組合設立準備会発足。シンチレーションスキャナを設置する。
	12月	胃ガンで死なない会を結成し、会員制の胃集検を開始する。
1973年	1月	国・県民の医療をよくする請願署名大運動を開始する。
	3月	請願団42名が上京し、老人や乳幼児の医療費無料化や救急医療制度などの請願を行い、署名16500筆を提出する。
1974年	1月	全国に先駆けて生協保健大学を開校し、45名を受け入れる。
	3月	針麻酔による甲状腺腺腫の手術に成功する。
	10月	保健大学第1期生34名が卒業する。修学旅行で佐久総合病院(長野県)を見学し、八千穂村(現佐久穂町)の保健委員と交流する。
1975年	3月	保険薬局、精神科病棟が完成する。
	5月	病院第3期建設竣工、235床となり精神科病棟32床を新設する。
1976年	3月	利根保健生活協同組合設立総会を開催する。
	5月	群馬県労働者生活協同組合から分離独立し利根保健生活協同組合が設立される。
	9月	定員150名の第1回総代選挙を開催する。
1977年	1月	日本生協連医療部会の機関紙コンクールで『利根の保健』が一位に入賞する。
	3月	第1回保健活動交流集会を開催し以後毎年度末に開催する。上越線津久田・岩本駅間で発生した急行列車脱線転覆事故の負傷者を受け入れる。
	8月	右腕切断患者の接着手術に成功する。
	11月	病院第4期建設の起工式を行う。全国生協大会で優秀生協として表彰を受ける。
	12月	保健大学2期生の同窓会を開催する。生協班会が1年間で475回開催される。
1978年	6月	全国組合員活動交流集会で阿部由子保健委員が活動報告を行う。
	11月	日本生活協同組合連合会から『健康を掘り起こす人々ー利根保健生協の活動からー』が出版され、当生協の保健活動が紹介される。
	12月	医療事務用のコンピューターを導入する。病院第4期建設2次分が完成し、手術室とX線室の使用が開始される。生協班会が1年間で575回開催される。
1979年	3月	群馬大学の山西哲郎助教授を招いて創立25周年記念健康ランニング講習会を開催し、50名が参加する。創立25周年記念第1回史跡めぐりを開催し、13名が参加する。第3回保健活動交流集会を開催する。
	6月	創立25周年記念第1回尾瀬ハイキングを開催し92名が参加する。 全国組合員活動交流集会で加藤三吉昭和東支部長が活動報告を行う。
	7月	第2回尾瀬ハイキングと薬草ハイキングを開催し161名、43名が参加する。
	9月	創立25周年記念行事映画「健康をほりおこす人々」を制作する。
	10月	病院第4期建設が竣工し病床数が245床、職員数237名となる。

1980～89 昭和55～平成1年



利根沼田地域の病院輪番制度が発足(1981年)
長年にわたり取り組んできた運動が実る



利根歯科診療所を設立(1982年)
口腔関係の診療・健康づくり活動の拠点となる



在宅酸素療法保険適用指定病院(1986年)
利根中央病院が群馬県内初の指定病院となる



ボランティア団体 あじさいの会が発足する(1985年)
熱布清拭や車椅子介助などの活動が患者に喜ばれる



薬草ハイキング(1980年)
薬草として使用可能な植物を見ながら
ハイキングを行う



『草の根の地域医療』出版記念会(1981年)
保健活動を紹介した職員執筆の書籍が販売される

1980年	4月	埼玉中央医療生活協同組合(現医療生協さいたま)の保健大学視察団が来院する。
	11月	当生協がNHKの番組で紹介される。
1981年	7月	検査と放射線平日宅直制を実施する。新型組合債1億円の募集を始める。
	10月	利根沼田緊急病院群輪番制が発足する。
	11月	木村朝次郎医事課長が『草の根の地域医療 利根保健生協・健康とくらしをつくる人びと』(あゆみ出版)を出版し保健大学と保健委員の活動が紹介される。
1982年	1月	利根歯科診療所の上棟式が行われる。先進班長会議を開催し、54名が参加する。
	4月	B型肝炎の母子感染防止措置を開始する。
	5月	利根歯科診療所を開設する。ユニット7台で診療を開始する。
	7月	利根沼田肝炎の会を結成する。
	8月	第1回利根沼田平和を語る集いを開催する。生協薬局を廃止し院内薬局となる。
	10月	埼玉中央医療生活協同組合が視察のため27名で来院する。
	11月	ストーマ患者の自立と親睦を目的とした利根沼田ききょう友の会を結成する。 長野保健生活協同組合が視察のため来院する。
1983年	8月	全身撮影用のCT装置を導入する。
	9月	社保学校第1期生14名が卒業する。
	10月	第1回子ども健康まつり(後のくらしと健康まつり、毎年実施)を開催する。
1984年	9月	創立30周年記念集會を開催する。人間ドックを開始する。
	11月	創立30周年のゲートボール大会を開催する。
1985年	3月	創立30周年記念の囲碁・将棋大会を開催する。
	5月	脳血管障害者の会を発足する。
	7月	ボランティア団体「あじさいの会」が作られ、結成総会を開催する。
	8月	第4回平和を語る集いを開催する。書家の協力で作製し展示する。
1986年	3月	県下第一号となる在宅酸素療法保険適用指定病院となる。
	5月	保健大学第22期として片品教室を開催し、42名が入学する。
	7月	歯科・保育所の竣工祝賀会を開催する。歯科夏季ゼミナールを開催する。
	10月	病院第5期工事の前半が終了し、建物の引き渡しが行われる。
1987年	6月	脳神経外科と泌尿器科が常勤化し、病室も稼働を開始する。眼科を開設する。
	7月	病院第5期建設が竣工し病床数324床となる。透析業務を開始する。
	9月	岩手県沢内村の保健活動を題材にした劇団銅鑼の演劇「燃える雪」が公演され、約1000人が鑑賞する。
1988年	1月	病院第5期建設が完了し、一般292床、精神科48床の計340床となる。 第1回暮らしの相談員活動交流集會を開催する。
	5月	第12回通常総代会が開催され、総代定数が180名から220名に増える。
	9月	吾妻郡高山村に高山支部を結成する(組合員数230世帯)。
	10月	高齢者組織「高齢者虹の会」を発足し、高齢者運動組織がスタートする。
1989年	9月	新治支部保健活動交流集會が開催され初の支部独自開催の交流集會となる。創立35周年記念集會を開催する。
	10月	大腸癌便潜血検査を班会に導入する。
	11月	群馬テレビが「看護婦の勤務実態」取材のため来院する。

1990～99 平成2～11年



片品診療所の設立(1990年)
片品村からの要請で設立する



病院に透析室を開設(1995年)
人工透析が可能となる



佐久総合病院保健セミナー修了者と交流(1998年)
他、東京、埼玉、新潟、福島等からの見学も受け入れる



スเปน・オーケ・バーク氏が視察のため来訪(1993年)
他、韓国からの見学研修も受け入れる



保健活動交流集会(1998年)
組合員による寸劇「健康宣言家族」が公演される



沼田土木事務所跡地の払下げ署名運動(1999年)
新病院建設予定地として払下げ署名運動を行う

1990年	2月	糖尿病患者会「しのめ会」の研修旅行でバス事故に遭遇する。
	5月	片品村から診療所開設要請が行われる。理事会で片品診療所の開設承認を行う。
	7月	片品診療所での診療を開始する。臨時総代会で診療開始に伴う定款改訂を行う。
	10月	劇団銅鑼の「されどわが町」が公演される。
	12月	利根歯科診療所の増築工事が完成しユニット数が13から18に増加する。
1991年	3月	東倉内寮(旧利根中央診療所建屋)を解体し、地主へ返還する。
	6月	第三代利根中央病院長に山路達夫医師が就任する。菊池医師は名誉院長となる。
1992年	2月	山梨勤労者医療協会(山梨県)から見学者が来院する。
	6月	映画「戦争と青春」の上映を行い約2000人が鑑賞する。
	8月	利根歯科診療所の原田富夫所長が『中年からの歯の健康法』(旬報社)を出版する。
	11月	片品診療所が新築される。病院が一般病床基準看護特Ⅱ類、精神持Ⅰ類を取得する。
1993年	2月	日本生活協同組合連合会医療部会保健学会から保健学会賞を受賞する。
	6月	沼田大正琴愛好連盟が慰問のため来院する。
	7月	スウェーデン協同組合研究所長のスペン・オーケ・ベーク氏が視察のため来訪する。
1994年	1月	職員班会メニューの発表会を開催する。
	5月	日本生協連の委託で東京都立大学日野秀逸研究室が当生協の組織調査を行う。
	7月	白根保健生活協同組合(新潟県)から16名が見学のため来訪する。
	8月	郡山医療生活協同組合(福島県)から9名が見学のため来訪する。
	11月	沼田市の大腸癌検診を開始する。40周年記念式典と演芸大会を開催する。
1995年	1月	附属棟での透析診療を開始する。阪神淡路大震災の救援活動を行う。
	2月	眼科の新しい診察室ができる。院外処方箋の一部発行を開始する。
	3月	病院第6期建設が竣工し、検査室、透析室が稼働しMRI装置骨塩量測定装置乳房診断装置を導入。眼科・皮膚科の診察室が拡充する。新看護婦宿舎が完成する。
	6月	皮膚科が常設となる。利根保健生活協同組合退職者の会を結成する。
	7月	日本生協連医療部会の関信越組合員交流集会在老神温泉で開催される。
	12月	長野県川上村より25名が視察のため利根中央病院に来院する。
1996年	7月	韓国医療生活協同組合の研修団が来訪し、交流を行う。
1997年	5月	とね訪問看護ステーションを開設する。
	7月	片品診療所歯科を開設する。
	10月	医療生協さいたま(埼玉県)から45名が来訪し交流を行う。
1998年	1月	佐久総合病院の佐久地域保健セミナー修了者50名が来訪し交流を行う。
	2月	片品診療所にとね訪問看護ステーション片品分室が開所する。
	3月	大腸癌便潜血10年のまとめを行う。のべ17175名が受け、癌27名、ポリープ202名、陽性率7.9%、新受診者ほど陽性・癌発生率が高い傾向が明らかになる。
	5月	第22回通常総代会にて保健連絡会員による寸劇「健康宣言家族」が行われる。
	8月	夏休み子供の歯の保健教室を開催する。
12月	台東保健生活協同組合(現東京保健生活協同組合)から9名が来訪し交流を行う。	
1999年	1月	病院が群馬県の災害拠点病院に指定される。
	3月	第1回赤ちゃん同窓会を開催する。
	9月	病院建設地確保のため群馬県と沼田市に土木事務所跡地の払下げを要請する。

2000～04 平成12～16年



とね在宅総合センター開所(2000年)
介護老人保健施設とね30床、訪問看護ステーション、
とね診療所、精神科デイケアなどが設置される



利根歯科診療所の新築移転(2003年)
ユニット数25台と北関東最大級の歯科診療所となる



知事表彰(2002年)
病院の救急医療が評価され県知事表彰を受ける



第1期歯の保健大学(2003年)
歯や口の保健活動に取り組む保健委員を育成する



第1回病院祭(2001年)
佐久総合病院の病院祭に学び手作りの病院祭を行う



院内クリスマスコンサート(1998年)
職員や看護学生サークルなどが出演する

2000年	3月	臨床研修病院現地調査が行われる。 厚生労働省から臨床研修病院に指定される。	
	4月	とね在宅総合センターが開所し、介護老人保健施設とね30床、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、とね診療所、精神科デイケアの事業を開始する。	
	5月	対外衝撃波結石破碎機を導入する。北海道有珠山噴火の被災地支援のため、ボランティアや募金活動を行う。	
	7月	土木事務跡地の払下げのため群馬県と沼田市に陳情を行う。	
	10月	院内秋のコンサートを開催し、入院患者160名を招待する。	
	12月	院内クリスマスコンサートを開催、職員や高校生看護サークルなどが出演する。	
2001年	3月	小児喘息親の会が結成される。	
	4月	診療情報やカルテの開示を開始する。世界保健デーまちかど健康チェックを開催する。	
	5月	佐久総合病院の病院祭見学ツアーを開催し40名が参加する。	
	10月	第19回くらしと健康まつり同日に第1回病院祭を開催する。「ピロリ菌と胃の病気」講演会や救急救命講習などが行われる。	
2002年	11月	高齢者のためのボランティア講座を開催し24名が参加する。病院利用委員会が駐車場の実態調査を行う。	
	2月	沼田市街地のまちづくり学習会を開催する。	
	3月	老健増築のため、近隣住民を対象とした説明会を開催する。	
	6月	有事法制問題学習会を開催し51名が参加する。	
	7月	歯科診療所リニューアル検討委員会が発足する。	
	9月	救急功労により病院が県知事表彰を受ける。	
	11月	病院が一部清潔区域を除き土足化する。	
	12月	保健大学52期生30名が卒業し、保健委員が1723名となる。	
	2003年	2月	虹のバレンタイン行動を開催する。
		4月	介護老人保健施設とねが増床し定員が入所50床、通所40人となる。
5月		歯の保健大学に1期生42名が入学する。	
6月		病院の玄関ボランティアを開始する。	
9月		病院が単独型臨床研修病院の指定を受ける。	
2004年	11月	利根歯科診療所が移転オープンしユニット数が25台となる。病院が病棟の再編成を行う。	
	1月	自衛隊のイラク派兵反対利根沼田集会を開催し110名が参加する。	
	2月	乳房撮影装置を更新する。病院の講堂が研修棟に移動する。	
	3月	創立50周年を迎える。病院が作業療法Ⅱと言語聴覚療法Ⅱを取得し算定を開始する。 MRI装置を更新する。	
	4月	医療機能評価審査を受審する。	
	6月	麻酔科医師が常勤化する。病院内が全館禁煙となる。	
	10月	群馬県労働局よりファミリーフレンド企業賞を受賞する。新潟県中越地震の支援のため8名派遣する。	
	11月	新潟県中越地震の支援のため2名を派遣する。	

2005～09 平成17～21年



西部夢プラン委員会開始(2008年)
みなかみ町への事業所設置の検討がはじまる



地域がん治療連携拠点病院公開シンポジウム(2007年)
がん診療連携推進病院の指定を受け開催する



公開講演会 「利根沼田のがん医療」(2007年)
松田輝雄氏を招き公開シンポジウムを開催する



公開講座 「利根中央病院におけるがん診療について」(2007年) がん診療に関する公開講座も実施



利根沼田1日派遣村(2009年)
生活相談や炊き出しなどの支援を実施する



第1回グラウンドゴルフ大会(2009年)
600人規模の大会となる
競技の合間に健康チェックを実施する

2005年	1月	「健康いろはカルタ」の草案を『利根の保健』に公表する。	
	2月	病院にオーダーリングシステムを導入する。	
	3月	創立50周年記念集会を開催する。	
	4月	映画「父と暮せば」の上映会を行う。	
	8月	生協及び事業所の個人情報保護方針を公表する。	
	9月	日本医療機能評価機構の病院医療機能評価のバージョン4.0の認定を受ける。	
	11月	精神科の国友貞夫医師が厚生労働大臣表彰を受ける。	
	12月	沼田土木事務所跡地を取得し、新病院建設委員会を発足する。	
	2006年	1月	病院建設準備委員会が発足する。
		2月	玄関ボランティア12人が群馬大学医学部附属病院のボランティアを見学する。
		7月	玄関ボランティアの車椅子講習会を開催する。
		9月	厚生労働省からがん診療連携推進拠点病院の指定を受ける。映画「2人日和」の上映会を開催し、982名が来場する。
2007年	1月	透析科減員の陳情で18000筆の署名を集めて群大病院や群馬県と交渉する。	
	2月	がん診療連携推進病院の指定を受けた一環として、公開シンポジウム「がん診療と地域連携—利根沼田の未来—」を開催し、130名が来場する。	
	3月	地域がん診療連携拠点病院講演会「利根沼田の『がん医療』～いまとこれから～」を開催する。群馬県議会で「利根中央病院透析室に引き続いて医師の派遣をお願いする請願書」が全会一致で採択される。	
	5月	都築靖病院長が理事長に就任する。	
	7月	新病院建設の設計会社として久米設計を選定する。新潟県中越沖地震にDMAT隊を派遣して支援する。	
	8月	市民公開講座「がんと健康」第1回として「利根中央病院におけるがん診療について」の講座を開催する。利用委員会を事業所ごとの開催する形に分ける。	
	10月	病院が7対1看護基準を取得する。	
	2008年	1月	病院にマルチスライスCTを導入。人間ドック学会人間ドック健診施設に認定される。
		4月	病院長が都築靖医師から長坂一三医師に交代する。
		7月	X線フィルムのモニター画像診断を導入する。
8月		病院の標榜診療科を32科に増やす。外来化学療法室を開設。利根西部夢プラン委員会を開始する。利根歯科診療所が歯科単独・管理型の臨床研修施設に指定される。	
10月	木村朝次郎顧問が消費生活協同組合法施行60周年式典で厚生労働大臣賞を受賞する。		
2009年	1月	新病院建設の基本設計が完成する。	
	2月	地域公開講演会「切らずに治す重粒子線がん治療」を開催し216名が来場する。	
	4月	内科を中心に医師が60名から52名に減員する。病院が厚生労働省から臨床研修病院(基幹型)の指定を受ける。利根歯科診療所で単独型歯科医師臨床研修を開始する。第1回グラウンドゴルフ大会を開催し約600名が参加する。	
	6月	医師減員などの影響で新病院の実設計や着工が延期となる。病院でペインクリニックを開始する。派遣切りに遭った労働者の支援で利根沼田1日派遣村を開催する。	
	10月	第1回病院再生懇談会を開催する。	
	11月	映画「いのちの山河」の上映会を開催する。	

2010～15 平成22～27年



新給食施設の完成と本部移転(2013年)
新給食施設(現セントラルキッチンぬまた)が完成
建物の2階に生協本部が移転する



新給食施設建設内覧会(2013年)
各事業所にクックチル方式の食事提供を開始する



生協みななかみ歯科開所(2011年)
町内初の事業所として保健活動の拠点となる



利根中央病院新築移転(2015年)
沼須町にて253床の病院として再スタートする



組合員通院支援の開始(2011年)
利用者からの要望で病院や診療所への送迎事業を開始



東日本大震災支援(2011年)
DMAT隊の派遣や物資の供出などを行う

2010年	1月	第2回病院再生懇談会議を開催する。	
	2月	常務理事会、病院管理部、職員オンブズマンの合同会議を開催する。片品支部が役員研修会を開催し、東信医療生活協同組合(長野県)を見学する。	
	3月	「当生協が直面している問題と解決に向けた常務理事会声明」が出される。全日本民医連の脱退を前提とした声明に理事や顧問、組合員から異論が出される。	
	4月	病院が群馬県がん診療連携推進病院の指定を受ける。日本生活協同組合連合会医療部会に専務機能強化と内科医師支援を要請する。	
	7月	はるな生協(高崎市)の中原宏副理事長の支援が始まる。	
	10月	夢プラン100人集会に98名が参加する。常務理事会の3月の声明の撤回と常務理事会体制の変更、全日本民医連への医師支援要請を理事会で承認する。	
	11月	医療福祉生活協同組合連合会の斎藤正氏の支援下で建設検討チームを設置し、河内英行医局長が責任者となる。病院管理部とともに医療構想などの議論を行う。	
	2011年	3月	東日本大震災へDMAT隊派遣等の医療支援を行う。
		4月	病院長が長坂一三医師から糸賀俊一医師に交代する。医師の大幅減員に際し、全日本民医連から一年間を通して内科3名・外科2名の常時5名分の医師派遣支援(計50事業所より97名)を受ける
		5月	生協みなかみ歯科を開設する。生協本部に事業部を設置する。
6月		理事長が都築靖医師から山田忠夫氏に交代となる。	
9月		精神科病棟が閉鎖され病床数が282床となる。新病院は新築移転とする方針が理事会で確認され、候補地の検討、旧病院の跡地利用に関する検討が始まる。	
2012年	10月	組合員通院支援を開始する。	
	3月	新病院の移転地として沼須産業団地を建設地とすることが理事会で承認される。	
	7月	沼須産業団地を取得し新病院建設用地とする。介護部を設置する。	
2013年	12月	臨時総代会を開催し、新病院建設事業計画の最終確認を行う。医療施設耐震化臨時特例交付金の申請を行い、申請条件である病床の1割削減のため建設計画の見直しを行う。全日本民医連のQI推進事業に参加する。	
	2月	とね診療所が労災指定医療機関の認定を受ける。	
	3月	病院が電子カルテを導入する。	
	4月	新給食施設が稼働を開始し、給食施設の2階に生協本部が移転する。	
	5月	利根歯科診療所に歯科用CTを導入。新潟勤労者医療協会かえつ歯科開設に伴い職員を派遣する。病院が厚生労働省医療の質の評価・公表等推進事業に参加する。	
2014年	10月	老健とね通所リハビリに短時間型を開設する。病院が無料低額診療事業を開始する。	
	3月	病院が国際HPHに加入する。群馬県と機関紙配布時の見守り協定を締結する。	
	4月	病院がDPC対象病院に移行する。総合診療科を開設する。	
2015年	7月	福祉有償運送事業(介護タクシー)を開始する。	
	4月	どんぐり保育園が地域型保育事業の認可を受け、一般児童受け入れが開始される。	
	8月	新病院内覧会に約3000名、新病院の竣工式典と祝賀会に約200名が参加する。	
	9月	病院が沼須町に新築移転し282床から253床へ変更、一般病床208床、HCU(廃ケアユニット)12床、回復期リハビリ病棟33床となる。ヘリポート、サテライトキッチンを新設する。新病院と沼田駅間のバス路線として、関越交通の沼須線が開通する。	
	10月	病院が日本HPHネットワークに加入する。	

2016 平成28年



サニーホームひまわり開設



どんぐり保育園新築移転



つながりマップづくりリーダー
養成講座開催



ボランティア「あじさいの会」解散
車椅子を寄贈

主な事業・活動

1月	サニーホームひまわり開設 (サブリース型事業)
2月	旧病院の解体を開始
3月	どんぐり保育園新築移転 (地域型保育事業認可)
4月	病院長交代：糸賀から大塚へ 熊本震災支援(10名) とね診療所 在宅療養支援診療所指定 片品診療所：整形外科外来を開始
6月	理事長交代：山田から糸賀へ
7月	つながりマップづくりリーダー 養成講座開催
12月	ボランティア「あじさいの会」解散 車椅子を寄贈 地域包括ケア病棟開設 (4B病棟42床を転換)



「利根中央診療所」
建設運動スタート集会開催



沼田東・沼田北支部全戸訪問



利根中央診療所上棟式

主な事業・活動

1月	「利根中央診療所」建設運動 スタート集会開催
2月	特別養護老人ホーム設置事業者に決定
7月	病院：電話予約センター開設
	沼田東・沼田北支部全戸訪問 利根中央診療所上棟式
9月	特別養護老人ホーム建設に向け 社会福祉法人「とね虹の会」設立 (旧利根中央病院跡地と運転資金を利根 保健生協より寄贈)
11月	利根中央診療所新築移転開設 (とね訪問看護ステーション・利根中央 病院居宅介護支援事業所併設)
	とね診療所：都築所長から利根中央診療 所小林所長へ交代



利根中央診療所新築移転開設



草津白根山噴火に伴うDMAT隊派遣



病児保育室「くるみ」開設



みんなの食堂にぎわい広場
(子ども食堂)を初開催

主な事業・活動

1月	草津白根山噴火に伴うDMAT隊派遣
3月	生協みなかみ歯科：CT導入
4月	病児保育室「くるみ」開設 (沼田市子育て支援事業)
6月	第42回通常総代会で3カ年計画 「あって良かった利根保健生協」承認
7月	西日本豪雨災害支援(職員3名派遣、支援 募金404,652円)
9月	JCEP(NPO法人卒後臨床研修評価機構)認定 みんなの食堂にぎわい広場 (子ども食堂)を初開催
10月	生協みなかみ歯科 無料低額診療開始 組合員どうしの助け合い (有償ボランティア)開始
11月	社会福祉法人「とね虹の会」特別養護老人 ホーム「とね虹の里」開設(80床)



組合員どうしの助け合い
(有償ボランティア)開始



組織部の名称改名
「生協くらしサポートセンター」



県北部の分娩取り扱い施設が
利根中央病院のみとなり分娩件数が急増



短時間通所リハビリ：レッドコード導入

主な事業・活動

3月	保健組織活動交流集会改め 第42回組合員活動交流集会開催
4月	利根保健生協入協式改め利根保健生協グループ辞令交付式開催 組織部の名称改名 「生協くらしサポートセンター」 友野鉄工所跡地取得 県北部の分娩取り扱い施設が利根中央病院のみとなり分娩件数が急増 短時間通所リハビリ レッドコード導入
12月	利根歯科診療所 3Dプリンター導入



利根歯科診療所：3Dプリンター導入



「新春交流会」を生協として初開催



新型コロナウイルス感染症
発生管理に伴い病院DAMT隊派遣



病院：救急科開設

主な事業・活動

1月	「新春交流会」を生協として初開催
2月	新型コロナウイルス感染症発生管理に伴い病院DAMT隊派遣、及び同感染拡大のため法人内活動自粛(組合員ホール使用禁止、組合員活動交流集會中止、総代研修會中止、囲碁大会中止、ブロック別総代會中止、子ども食堂中止、地域訪問自粛、班會活動自粛)など
3月	片品診療所：居宅介護支援事業所廃止
4月	新型コロナウイルス感染により、病院の一般外来、救急受入、新規入院を停止。同時に利根歯科診療所、生協みなかみ歯科共に診療体制の縮小。利根中央診療所にて病院の一部外来患者の受け入れ実施。沼田市からの要請で、病院再開まで病児保育室くるみを一時休止
	病院：救急科開設
	短時間通所リハビリのスペース拡大
5月	GW空け翌週より病院を再開(健診センター以外)。コロナ疑い患者受入医療機関の指定
6月	病院：登録医制度開始
9月	病院：コロナ診療・検査外来の指定
11月	病院：救急病床4床開設
12月	院内PCR検査実施



新型コロナウイルス感染症対応への
各地から届いた応援メッセージ



フードドライブ活動「おすそわけ」
を初開催



シトラスリボンプロジェクトに
賛同したとりくみ開始



沼田市と
「地域見守り活動に関する協定書」締結

主な事業・活動

2月	新型コロナワクチン接種プロジェクト立ち上げ
4月	病院長交代：大塚から関原へ 病院：第1回CMAT派遣
5月	フードドライブ活動「おすそわけ」を初開催 初めてJA利根沼田と「親子農業体験」を共催
6月	理事長交代：糸賀から大塚へ 病院：新型コロナウイルスワクチン個別接種開始 片品診療所：新型コロナウイルスワクチン個別接種開始 シトラスリボンプロジェクトに賛同したとりくみ開始
7月	利根保健生協のBCP作成
8月	生協みなかみ歯科：歯科医師臨床研修施設（協力型）に認定
9月	沼田市と「地域見守り活動に関する協定書」締結 病院：新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定、受入病棟改修工事
11月	わがまち探検&クリーン大作戦の活動開始



わがまち探検&クリーン大作戦の活動開始



生協みなかみ歯科
技工CAD/CAMシステム設置



生協ハート市を初開催



病院：入院患者を対象に
似顔絵セラピーを開始

主な事業・活動	
1月	生協くらしサポートセンターになんでも相談窓口フリーダイヤル開設
2月	生協みなかみ歯科 技工CAD/CAMシステム設置
4月	生協ハート市を初開催 利根中央診療所所長交代 小林から大塚へ 病院：入院患者を対象に似顔絵セラピー開始
5月	みなかみ町(社協含む)と「地域見守り活動に関する協定書」締結
6月	「教えて先輩！子育てを楽にする魔法」シリーズ①開催
7月	生協の「LINE 公式アカウント」運用開始
9月	病院：産婦人科医師確保のため、沼田2次医療圏の各市町村健康福祉課と懇談
11月	片品村と「地域見守り活動に関する協定書」締結
12月	病院：パートナーシップ宣誓制度3県連携(群馬、茨城、栃木)を受託 川場村および昭和村(社協含む)と「地域見守り活動に関する協定書」締結



「教えて先輩！子育てを楽にする魔法」
シリーズ①開催



4色あしづみラダー
サポーター養成講座開催



東部・西部ブロック合同
「スマホ教室」開催



生協みなかみ歯科
通院支援個別送迎を開始

主な事業・活動

1月	4色あしづみラダーサポーター養成講座開催
2月	高山村と「地域見守り活動に関する協定書」締結 東部・西部ブロック合同「スマホ教室」開催
4月	病院：医師の働き方改革プロジェクト立ち上げ 利根沼田広域圏周産期医療維持費補助金(新設)申請
5月	病院：群馬県外来対応医療機関への登録
6月	片品診療所：群馬県外来対応医療機関への登録 生協みなかみ歯科：通院支援個別送迎を開始
9月	病院：新型コロナウイルス受入病棟閉鎖、県と新型コロナウイルス感染症患者専用病床の合意書を締結
10月	利根歯科診療所：自動精算機設置



利根歯科診療所 自動精算機設置



病院：能登半島地震石川県珠洲市へDMAT隊派遣、災害ナース派遣



病院：超音波内視鏡装置を導入



土曜日シャトル便：完全予約制へ変更

主な事業・活動	
1月	病院：能登半島地震石川県珠洲市へDMAT隊派遣、災害ナース派遣
	病院：超音波内視鏡装置を導入
2月	病院：県と医療措置協定締結
	第一種協定指定医療機関及び第二種協定指定医療機関の指定
6月	病院：発熱外来にてWEB問診を導入
7月	土曜日シャトル便：完全予約制へ変更
8月	利根中央診療所：院内処方から全面院外処方へ切り替え
	利根中央診療所：沼田市デマンドバスの乗降場所に診療所を追加設置



病院：発熱外来にてWEB問診を導入



利根中央診療所：沼田市デマンドバスの乗降場所に診療所を追加設置



フェクト・ネパール(幹部7名)による
利根保健生協視察への対応



病院：循環器センター開設



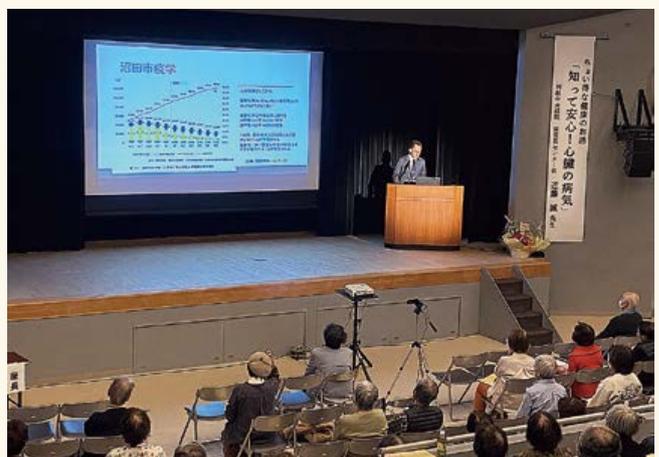
生協創立70周年
「第1回スポーツ吹矢交流大会」開催

主な事業・活動

3月	フェクト・ネパール(幹部7名)による利根保健生協視察への対応
4月	病院：循環器センター開設
5月	病院：地元バス会社7社と「水害時における病院非難のための災害協定」締結
10月	生協創立70周年「第1回スポーツ吹矢交流大会」開催 新病院移転10周年・生協創立70周年「病院祭」開催
11月	「ちょい得な健康のお話」を初開催



病院：地元バス会社7社と
「水害時における病院非難のための災害協定」締結



「ちょい得な健康のお話」を初開催

沼田東支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：83班

組合員数：1,700人

支部長：小幡 普

■活動内容

沼田東支部は、管内23支部のうち材木町・東原新町・西原新町・上原町の4町で構成されております。支部内には理事1人・監事1人を含め13人の支部役員がいて主に活動しています。

昨今の少子高齢化により役員さんのなり手が少なく苦勞しているところですが、一方でサークル活動は「健康卓球教室ゆうゆう」「健康卓球クラブ」「スポーツ吹き矢健康倶楽部」「東原八木節愛好会」があります。支部の活動として「わがまち探検&クリーン大作戦」は定期的で開催しており、利根保健生協をアピールする一助になればと継続しています。

また、支部運営委員会も月に1回の開催をしており、「支部ニュース」も月1回の発行で組合員さんから身近な事柄として愛読されてますことを感謝しているところです。諸先輩たちが、血のにじむような努力により利根保健生活協同組合が70周年を迎えることが出来たことに対して心よりお祝い申し上げます。70年前というとまだまだ戦後間もない時期で、安定していない時代でした。現在は、組合員が約28,300人(2025年9月時点)になり、利根中央病院は地域の中核病院としての役割を果たしていると思っております。

私事の体験を述べますと、泌尿器科は、機器の不足から「骨シンチレントゲン」「放射線科」の設置があれば、「渋川医療センター」へ紹介がなくても済み、39日間の通院が地元の「利根中央病院」で診療が出来るとつくづく思いました。組合員の新規加入や組合員からの増資により、最新機器を増設してもらうことができます。ぜひ皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

(執筆：支部長 小幡 普)



毎月定例開催の支部運営委員会



わがまち探検&クリーン大作戦

沼田中支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：35班

組合員数：543人

支部長：原 勇

■活動内容

沼田中支部は、中央ブロック4支部の中では最小の支部で上之町、中町、下之町、東倉内町、西倉内町の5町から成り立ち、沼田市の中心街に位置しています。

支部運営委員会は毎月開催しており、原支部長を中心に理事と総代と合わせて7人に運営委員1人で活動をしております。毎年「まちかど健康チェック」で出店している柳波まつりや沼田ふびす講では、支部運営委員全員が参加して少数ながらも活動を頑張っております。

支部企画も毎回工夫をして開催していますが、2025年6月には「モルック交流会」を開催。西倉内町の沼田公園定期清掃当番に参加された皆さんも合流していただき20人で青空の中、のびのびと楽しみ「頭も使っていい汗かいたよ」と参加者から大変好評でした。



クリーン大作戦(沼田公園)



笑い声の絶えない「モルック交流会」



11月には「輪投げ交流会」を2年ぶりに開催して11人が参加。12月には「お楽しみ会」として連携職場も参加して「ボッチャ」を初めて行い18人が参加しました。企画案内は地域訪問しながら声を掛け合いお誘いしました。

支部運営委員会のモットーは、少数で高齢者が多いので「健康で、楽しく、気楽に参加し笑いのある」支部にすること。地域の皆さんと健康体操やゲーム等で交流を図り、これからの世代を担う若い仲間づくりに力を注いで行ければと思います。

(執筆：常任理事 鈴木 務)



輪投げ交流会



初めて「ボッチャ」に挑戦

沼田南支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：36班

組合員数：628人

支部長：千明 孝男

■活動内容

沼田南支部は「鍛冶町、坊新田町、馬喰町」3町の組合員で構成されています。

歴史的な経過として、この地域には、利根保健生協の創立に関わり、中心となって支えて来た(故)小泉初男元理事長がいました。小泉さんは鍛冶町に生を受け、軍隊に召集された後シベリアに抑留され、日本に帰ってから利根保健生協の創立に関わりました。後に坊新田町に居住して沼田南支部の創立にも関わりました。

支部の創立は小泉さん、勅使河原正太郎さん(元沼田市議)、馬場半次郎さんなど4~5人から出発して支部ができました。馬場半次郎さんは、歌に司会に書道や絵画、木工細工と幅広い才能の持ち主で、人柄も良く、物事に対して誠実で長い間支部長を務めてきました。その後も沼田南支部からは、木本俊夫さんや細木潮さんなど個性豊かな人材が理事や支部長を務め、沼田南支部を支えてきました。

現在も個性豊かな人たちが支部を支えています。理事の大嶋忠さんは元銀行員の経験を生かして病院経営に度々提言をしています。利根保健生協は、「健康をつくる。平和をつくる。こころ豊かなまちをつくる。」を理念とする運動体でもあり、同時に病院や介護施設などを経営する経営体でもあります。この2つを一体として進めるうえでの大嶋理事の提言は大切です。また、支部長の千明さんは忙しい仕事の中で会場の確保から、吹き矢のイベントでは景品として豪華な花を格安で提供し参加者に喜ばれています。副支部長の小林さんは、吹き矢の先生級の腕前で所作や吹き矢のルール指導など、それぞれが得意な分野を発揮して支部を支えています。その他の運営委員も個性豊かな人たちで、支部の運営に携わっています。

沼田南支部の住民は高齢者が多く、高齢になると体のいろいろな部分が悪くなり、身近な相談相手としての支部の役割は重要になっています。楽しく生き生きと参加できる支部を目指して頑張りたいと思います。

(執筆：総代 飯田 武一)



スポーツ吹矢交流会



モルック交流会

沼田北支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：74班

組合員数：1,654人

支部長：齋藤 一章

■活動内容

沼田北支部は沼田台地の北部に位置し、高橋場町、柳町、桜町の三町が北支部の区域です。世帯数は高橋場町が1,601、柳町が593、桜町421で合わせ1,173世帯。新興住宅地として最も住民が増えていた地域ですが、最近では高齢化も深刻な状況です。

支部結成は1989年で、当時は保健大学を46人が受講し高橋場町住民センターで開講。

柳町公民館で20人参加や桜町公民館でも33人が受講されるなど、保健委員さんを送り出した歴史もあります。

現在では、定期的な班会を行っている「ときめき班」は、自主活動が活発で家に閉じこもらず、みんなで集まって出かけることも大切。また、サークル活動を積極的に行う「パッチワークいこい」、健康づくりを中心とした活動を行っている「秋桜会」など多種多様です。最近では、「スポーツ吹矢愛好会」がサークル活動登録を行い、オーラルフレイル予防としてスポーツ吹矢を楽しんでいます。

また、沼田北支部の活動として「わがまち探検&クリーン大作戦」は毎月第1土曜日に行っています。町をきれいにすることと利根保健生協活動をアピールすることも大切な活動として実施しています。城堀川には川魚が泳いでいる様子が見られて、川沿いや通りの家々には様々な季節の花を鑑賞もできて楽しんでいます。

また、生協活動の一環として、4月には「柳波まつり」や11月には「るびす講」での「まちかど健康チェック」を中央ブロックとして実施しています。握力測定は子どもから高齢者まで人気で最近では足指筋力測定も行っています。

私たち沼田北支部は、いつでも、生協の理念である「健康をつくる。平和をつくる。こころ豊かなまちをつくる。」をモットーとして前進して参ります。

(執筆：理事 川端 康雄)



花々の鑑賞や付近の歴史を談笑しています



十王公園周辺を川に沿って
クリーン大作戦

池田支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：70班

組合員数：908人

支部長：小野 光良

■活動内容

中山間地に属する、わが池田地域は生協活動が活発に行われてきました。

先人達の活動組織の構築と発展、地域住民の活動における理解と協力は大変立派で胸を張って言えることと自負しております。

しかし近年、高齢化に伴い問題が山積みしてきています。細やかで地道な活動を継続して行くことが不可欠です。

住み慣れた町で安心して暮らし続けるために、「お互いさまのまちづくり」でIKEDA区民フェスや池田区民文化祭でまちかど健康チェックを行い、具体的な活動を実践しています。

この熱い思いをこれからも地域福祉医療のために継続していきたいと思います。生協くらしサポートセンター職員の方々の指導と助言を仰ぎながら、さらに活動を進めていきたいと思ひます。

（執筆：理事 小野 光良）



岡谷町サロンで健康班会
(2019年1月)



池田学童の子どもたちとグラウンドゴルフ大会
(2019年8月)



IKEDA区民フェスでまちかど健康チェック
(2024年10月)



池田区民文化祭でまちかど健康チェック
(2025年11月)

利根北支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：63班

組合員数：1,009人

支部長：小林 雄三

■活動内容

利根北支部の地域状況は、観光地として老神温泉と吹割の滝などがあります。大きいホテルは企業のグループが経営をして、地元の旅館は地道にやっています。診療所も一カ所あります。主な産業は農業であり、大きな農家は外国人の実習生や研修生を受け入れて年間通じて働いていますが、小さい農家はお米作りや自家製の野菜などを栽培しています。若い人はほとんどが沼田、白沢町の工場、昭和村の工業団地で働いています。

「利根の保健」機関紙は、前支部長がほぼ全地域の班長への配布を数十年実践してきましたが、支部役員および班長さんの高齢化とともに減少傾向にあります。空き家も増えて限界集落になりつつあります。

そんな中でも地域の組合員さんとのつながりづくりとして、2018年からは6つのサークル（追貝12会、平川GG愛好会、大原睦会、老神GG愛好会、高戸谷、大原GGクラブ）が登録して活動を行ってきました。毎年、片品診療所での「インフルエンザ予防接種」班会も行っています。病院や診療所への受診では通院支援を利用しています。

これから団塊世代の人たちが80代になってくると、地域での色々な活動が困難になっていくことが考えられます。このような状況でも利根保健生協の役割はますます必要で大切になってくると考えます。今後も地域の方々と力を合わせて活動をしていきたいと思えます。

（執筆：常任理事 千明 利久）



2023年10月よりサークル追貝12会で
福老体操を毎週火曜日におこなっています！



とねふるさと風のまつり
まちかど健康チェックを行いました(2025年8月)

利根南支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：20班

組合員数：406人

支部長：笛田 一男

■活動内容

1987年より日本は人口減少社会になり、早40年になろうとしています。我が利根南支部でも農林業の衰退により集落の消滅、学校の廃校、コミュニティの希薄化など深刻な課題が山積しています。

日本は昭和20年敗戦による焼け野原から農林業を軽視し経済発展のみを目標として男性中心に行ってきた結果が、今日の日本の姿ではないでしょうか。人が生きて行くために一番大切な食料も60%以上も他国に頼らなければ行けない日本になってしまいました。このような日本に明るい未来は果たしてあるのでしょうか。

利根保健生活協同組合では、「健康をつくる。平和をつくる。こころ豊かなまちをつくる。」を理念に多くの役職員・組合員が日々努力をしています。しかし、残念なことに思う様な結果に結びついていないのが厳然たる事実です。

このような厳しい中であって、平成11(1999)年に制定された男女共同参画社会基本法により、女性の活躍が様々な問題をのりこえ目立つ様になりました。男性中心に行ってきたが行きづまってしまいました。地域再生のためには、さらなる女性の活躍が求められています。

利根南支部では、理事を始め女性の役員が多く頼もしいかぎりです。生協、ブロック、支部の企画への参加や通信教育などで学んでいます。「お気楽会」では毎月、自主班会を計画して行っています。また、サークル活動も2023年4月より「たんぼぼの会」を結成しウォーキングを週2回、2024年4月より「スポーツ吹き矢利根南支部」として毎月2回開催しています。

これからも地域再生のために何をしなければならぬのか何が出来るのか、役職員・組合員とともに話し合い、考えて生協活動にとりこんでいきたいと思えます。

(執筆：支部長 笛田 一男)



紅葉狩り 根利森林鉄道
機関車の前で撮影(2020年11月)



南郷の曲屋でそば打ち体験
手打ちそばをみんなで試食!(2024年6月)

片品支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：101班

組合員数：1,761人

支部長：萩原 均

■活動内容

片品支部の役員は理事、総代、運営委員を含めて14人で活動しています。

支部運営委員会は片品診療所で18時～20時頃まで行っています。なかなか全員の総代が集まれる事は少ないですが、理事と診療所の事務長も参加をして実施しています。

機関紙「利根の保健」の梱包作業も片品診療所で毎月役員さんの協力を得て行われています。機関紙の配布は村内8行政区を12に分けて101人の班長さんをお願いをして配布をしてくれています。組合員さんが配布困難な地域では、区長さん、組長さんの力をお借りして配布していただいている地域もあります。

班会は各集落で相談をして、やりたい内容を決めて実施しています。サークル活動は下平GG愛好会、御座入白友会、鎌田ひまわり会の3つのグループが登録しています。グラウンドゴルフを中心に活発に活動されていて、総代会のサークル活動表彰も受けられています。

2024年には、片品支部と片品村との共催で『笑いヨガ&脳活体操』を開催し、34人の方に参加していただきました。また、コロナ禍を経て2024年、2025年と片品村のふれあいバザールでまちかど健康チェックを診療所の職員と支部役員、事務局の参加で延べ100人以上の健康チェックをすることができました。今後も片品村とのコラボ企画を計画していきたいと考えます。

片品村は高齢世帯がますます増加しています。医療や介護など福祉が重要になってきています。そういう意味でも片品診療所はますます重要になってくると考えます。

利根保健生協の拡充に期待を寄せています。

（執筆：支部長 萩原 均）



片品村共催で笑いヨガ&脳活体操
(2024年7月)



ふれあいバザールでまちかど健康チェック
(2025年7月)

川場支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：68班

組合員数：1,079人

支部長：信澤 昇

■活動内容

私たち川場支部は、理事と総代8人の9人で活動しております。現在は、毎月の支部運営委員会を川場ベース2階の会議室にて開催しています。

現在の課題として、各地区の総代選出に苦勞しており、現状では生協職員とつながりがある方々に総代をお願いしている状況です。そんな中でも毎年の生協強化月間では、連携職場と一緒に計画的に地域訪問を実践してきました。名義変更も役員から声かけをしていただき、名簿整理も進んでいます。

今年の8月頃からは、「生協くらしサポートセンター」事務局の提案のもと、フィンランドのカレリヤ地方発祥のスポーツ「キイッカ(kyykkä)」をもとに開発された「モルック」というゲームを取り入れ、初めての支部サークル活動として楽しく取り組んでいます。

しかし、この活動に関して一つ問題が発生しました。会場として室内の武道館ゲートボール場を使用したところ、使用料が6,000円かかることがわかり、支部の予算では負担が難しい状況でした。そのため、会場を管理している教育委員会に相談したところ、「村民が10人以上参加する場合は無料になります。その際は使用許可書を4部提出してください」とのご指導をいただきました。その後、指示に従い書類を提出し、現在は前月に2セット提出して予約を行うことで無料で利用させていただいております。慣れない事務手続きに苦勞しましたが、何とか運用できるようになりました。

毎月の運営委員会は、モルックを行う前にゲートボール場の隅にテーブルを並べて会議を行い、その後にモルックを楽しんでいます。モルックは、頭を使い体を動かしながら計算も行うスポーツであり、非常に良い活動だと感じています。

一方で、川場村には8地区ありますが、現在総代のいない地区が2地区あり、今後の対応を検討中です。また、機関紙の配布については、いくつかの地区では区長を通じて全戸配布を実施しています。今後は、残りの地区でも同様に配布できるよう努力していきたいと考えています。

(執筆：支部長 信澤 昇)



運営委員会後にモルック体験(2025年10月)



支部運営委員会(2025年10月)

利南支部

■支部現勢 (2025年12月末)

班数：104班

組合員数：2,171人

支部長：梅澤 章二

■活動内容

利南支部は国道120号線の横塚町、久屋原町と片品川の東西の流れに沿って上久屋町、下久屋町、上沼須町、沼須町、新町、戸鹿野町、栄町の9町で構成されています。

2019年4月に支部長を引き受け「さあ、これから」という時に新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し、あらゆる行事や活動が規制・縮小・中止を余儀なくされ大変な時代になりました。2年位前から徐々に日常が戻り、2025年10月に「病院祭(きらめき祭)」が復活し、新たに「スポーツ吹矢交流大会」が開催され、モルック大会、グラウンドゴルフ大会など、様々な行事が開催されるようになりました。

利南支部では運営委員会を毎月開催し様々な活動の計画・実施や生協からの時々の課題の検討・実施を行っています。その中で毎月発行している「支部だより」では支部の活動や保健生協の行事や地域の情報をお伝えしています。

○支部活動

- ・学習会(日本医療福祉生協連発行：コムコムや地域の歴史・史跡など)
- ・地域の健康保持と増進に役立つ「健康チェック」を行事やスーパーで実施
特にフレッセイ沼田栄町店での健康チェックは3ヵ月に1度実施し地域の方々の健康づくりに貢献しています。
- ・レクリエーションの実施(忘新年会、ボウリング大会など)
- ・この他、利根中央病院駐車場含む周辺のごみ拾い(クリーン大作戦)の実施
- ・運営委員が中心になり班会(木花会)を毎月開催、組合員に喜ばれています。

(執筆：支部長 梅澤 章二)



「利南の石造物」の学習会(2025年7月)



まちかど健康チェック(2025年10月)

白沢支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：76班

組合員数：1,228人

支部長：増田 智海

■活動内容

利根保健生協創立70周年おめでとうございます。

2014年に60周年を迎えてから早10年、この間に新病院も完成し、利根保健生協白沢支部の活動も新たな段階に入りました。

白沢支部では、60周年から10年間で2025年10月末現在、組合員数は928人から1,228人に増え、班会・サークル活動も1グループから3グループになり、年間30回の活動をするまでになりました。

また、支部活動も総代9人、運営委員3人と理事・連携職場職員・生協くらしサポートセンター職員の3人を加え、計15人で運営委員会を構成し、検討・実行を行っています。

<支部活動>

○支部だよりの発行・・・ 2018年10月から原則毎月発行し、支部の活動や行事、時々の注意喚起などを掲載しています。

○まちかど健康チェックの開催

「望郷の湯野菜直売所前」「白沢健康福祉センター内」などで年数回実施しており、地域住民の健康づくりに貢献しています。また、2014年から毎年JA利根沼田東部支店で開催されている「収穫祭」会場でも実施しています。

○わがまち探検&クリーン大作戦の開催

年数回、公道にポイ捨てされているゴミを拾い道路をきれいにするとともに、地域の歴史なども学ぶ活動をしています。

<班会・サークル活動>

○尾合合同班、下古語父合同班・・・ 毎月1回開催し健康チェックや脳トレ運動を実施

○スポーツ吹矢サークル・・・ 毎月2回練習(5人)

(執筆：支部長 増田 智海)



「望郷の湯」野菜直売所前で健康チェック



「わがまち探検&クリーン大作戦」

昭和東支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：63班

組合員数：1,027人

支部長：反町 玲子

■活動内容

みなさん、こんにちは！ 昭和東支部です。

私たちの支部は、糸井・貝野瀬・生越地域で役場のあるところ。理事1人、総代8人、運営委員1人の10人で活動しています。

活動は、「わがまち探検&クリーン大作戦」を行っています。東地区の史跡をめぐるゴミ拾いを行っています。2024年度は大河原小学校路等のゴミ拾いの後、開拓時代を知る方から、開拓の歴史と苦難を乗り越えて現在の“野菜王国”昭和村の基礎を築いた話を伺いました。

また、「昭和の湯」で偶数月の第2土曜日に行っている「まちかど健康チェック」は昭和南支部と合同で開催しており、地域の方の健康管理に貢献しています。これには毎回20~30人の方が入浴前や入浴後にチェックを受けています。その他、「昭和の秋まつり」「昭和村文化祭」でも合同の「まちかど健康チェック」を実施しています。

(執筆：支部長 反町 玲子)



追分地区のクリーン大作戦



開拓時代の話を聞いた



昭和の湯でまちかど健康チェック
チェックをした後は結果や日頃の体調などについて看護師による「健康相談」も実施

昭和南支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：54班

組合員数：1,091人

支部長：大門 信子

■活動内容

現在、昭和南支部は理事1人、総代8人、運営委員1人の総勢10人で活動しています。支部の活動としましては…

- ①偶数月の第2土曜日15:00～17:00、昭和の湯を会場に「まちかど健康チェック」を実施し、地域の健康づくりに貢献しています。
- ②昭和村の「秋まつり」や「文化祭」へも「まちかど健康チェック」で参加・協力しています。
- ③「わがまち探検&クリーン大作戦」と称した、身近にある史跡などの学び、探検、そして関越自動車道昭和インターへのアクセス道路上下線脇のゴミ拾い等をとおして、自分たちの地域を知り、住みやすい村づくりへの貢献などの活動をしています。

また、支部役員同士の交流のため、年に2回くらいの食事会や「お楽しみ会」として、地元でありながら知らない景色を見に行ったり、郷土料理の勉強会など、毎年何らかのテーマで実施し、互いに一層親しく知り合い、楽しく充実した支部運営につながっています。

私は昭和村の別荘地に住んで20年目ですが、群馬県に住んでから一度も悪い人に出逢ったことがありません。どなたも快く、よそ者扱いせずスナリと受け入れてくださり、上州は本当に良い所だと感じています。

それでも地元の方々の知り合いはさほど多くはなく、利根保健生協の支部活動の役員に加わってからは支部活動に参加しなければ出逢えなかったであろう沢山の方々と知り合い、みなさん良い方ばかりで感謝しています。

今後の課題としては、老いも若きも、いつでもだれでも集える「集いの場」「班会」づくりができたかと頑張っています。

(執筆：支部長 大門 信子)



昭和の湯、秋まつりでの健康チェック



昭和ICアクセス道路のゴミ拾い

沼田西支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：62班

組合員数：1,208人

支部長：小池 よし子

■活動内容

2004年から始めた「地域まるごと健康づくり」でのまちかど健康チェックは、下町住民センターで継続して開催されてきました。現在も清水町、榛名町の保健推進委員さんと連携職場の協力をいただきながら実施しており、地域の方々からは健康アドバイスが大変喜ばれています。

コロナ禍以前は年に2～3回の班会を行っていましたが、活動自粛により開催できない時期が続き、委員の入れ替わりもありました。活動再開後は何をしたらよいのか分からず戸惑う時期もありましたが、現在は年に1回の合同班会を開催し、下町3町の地域組合員が楽しく交流できる場となっています。

さらに2025年9月には「したまちぼけつと（旧弘文堂）」で支部運営委員会が開催できるようになり、下町での活動も徐々に広がりを見せています。

高齢化が進む下町ですが、行政とも協力しながら「つながりづくり」をすすめ、活気ある町を目指しています。役員一同、これからも元気なまちづくりにとりくんでいきます。

（執筆：支部長 小池 よし子）



3町合同班会 かるた・たこ焼きパーティ
(2020年1月)



3町合同班会 お宝釣りゲーム
(2025年10月)



利根川河川広場にてクリーン大作戦(2025年5月)

薄根支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：98班

組合員数：1,930人

支部長：滝 四郎

■活動内容

当支部は沼田市北部に位置し、組合員数は1,930人です。市全体の人口は減少傾向にあるものの、当地域では若い世帯を中心に増加しており、市内小学校区では近年もっとも多い学童数となっています。

役員体制は理事・支部長・副支部長を含む運営委員13人と班長で構成され、担当職場はリハビリ室です。重点的なとりくみとして、機関紙配布の未配布地域を減らす活動をすすめ、委員が主体的に訪問を行った結果、未配布班を15班から8班に減らし、配布者7人を確保しました。配布を通じた見守り活動も実施され、全支部の中で配布部数がトップとなっています。さらに6年前からは「支部だより」を発行し、組合員宅へ機関紙と一緒に届けています。

コロナ禍で中断していた班会ですが、運営委員会の会議前後に「4色あしぶみラダー」や「モルック」などのレクリエーションを取り入れ、楽しい班会を地域に広げる試みを始めています。地域活動では、まちかど健康チェックを市内の入浴施設を活用して継続しています。また「わがまち探検&クリーン大作戦」では小学校周辺から活動を広げ、文化財見学と美化活動を組み合わせた企画を進行中です。

今後は未配布班のさらなる減少や組合員の増加、班会の活性化を通じて地域の復活を目指します。若い世代との交流や新たな地域訪問を企画し、誰もが安心して住み続けられる町づくりに向けて支部運営をすすめていきます。
(執筆：常任理事 桑原 俊仁)



碓田白岩合同班(2024年8月)



まちかど健康チェック(2025年7月)



元気ボケーション班会
(2025年9月)

川田支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：73班

組合員数：946人

支部長：生方 準一

■活動内容

川田支部は利根川の右岸、子持山の山麓に位置しています。組合員数は約946人と少ない支部ですが、75班あります。運営委員は9人(内、総代7人)で活動しています。連携職場は栄養管理室で会議にも必ず参加していただき感謝しています。

支部で最も重視しているのが、機関紙「利根の保健」を全組合員に届けることです。その達成に向け支部長を中心に努力中です。地域の特性上、隣家が離れているところや、山あいに居住地が多く雪が降ると動きが取れなくなるところもあります。さらに、組合員の高齢化も重なり機関紙の配布も容易ではありません。班長さんの頑張りでも高配布率を維持していますが、引き続き配布者への感謝の気持ちを忘れないようお願いしていこうと思います。

支部の活動としては、天狗山祭りでの「まちかど健康チェック」、「わがまち探検&クリーン大作戦(クマ出没のため中止)」、「ハイキング(2025年度は三峰山)」、「地域訪問(5ヵ年計画で全戸訪問)」等、行っています。また、班会やサークル(楽しく山散歩)活動もあります。

今後は「川田支部だより」を活用しながら、楽しくかつ健康づくりを念頭に企画を考えていく予定です。少しでも支部内のつながりが広がるようとりくんでいきたいと考えています。

(執筆：支部長 生方 準一)



ひまわり班会
(2024年9月)



わがまち探検&クリーン大作戦
川田神社(2024年10月)

高山支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：50班

組合員数：716人

支部長：登坂 茂喜

■活動内容

吾妻郡の最東部に位置する高山村は、郡は違えど利根沼田地域とのつながりが深く、縁組や通勤・通学など、さまざまな交流によって結ばれてきた地域です。

約100年前、中山村と尻高村が合併し、現在の高山村が誕生しました。人口は約3,300人ですが、少子高齢化が進み、減少傾向にあります。そのため村では、移住相談窓口の設置や空き家活用プロジェクトなど、移住者増加に向けたとりくみをすすめており、少しずつ成果が見え始めています。

私たち高山支部は、理事・総代・運営委員あわせて13人で活動しています。最近の活動では、日帰り温泉「高山温泉ふれあいプラザ」で偶数月にまちかど健康チェックを開催し、村内外の方々に健康づくりを広めています。さらに、2024年度からは年1回の「おたのしみ会」を企画し、村民との交流や利根保健生協を知っていただく場を設けています。また、毎月「交流施設なごみ」で開かれる「判形いきいきサロン」では、支部理事の小林あい子さんを中心に、工夫を凝らした内容で楽しい時間を過ごしています。

小さな村だからこそ、横のつながりを大切に――

それが私たち高山支部の思いです。

これからも支部の仲間と助け合いながら、活動をすすめていきたいです。

(執筆：支部長 登坂 茂喜)



まちかど健康チェック(2023年12月)



おたのしみ会(2025年2月)

月夜野東支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：105班

組合員数：1,491人

支部長：横田 伸次

■活動内容

月夜野東支部は旧月夜野町の利根川左岸を範囲内として、総代11人・理事1人が運営委員として毎月の定例会議や年間の行事を行っています。また運営委員は支部長1人・副支部長1人・会計1人・病院利用委員2人・みなかみ歯科利用委員2人などを兼任しており、理事・支部長・副支部長は隔月のみなかみブロック正副支部長会議に出席しています。

定例会議の前にはSDGsの実践としてラジオ体操第一を行っており、読書委員によるcomcomの読み合わせや通信教育の勉強会を行っています。

みなかみブロックとしては、みなかみ町保健福祉センターで行われる「福祉ふれあいフェスティバル」に参加して健康チェックをしています。

また、班会やサークル活動も積極的に行っています。つきよのいきいき班では月2回生協みなかみ歯科虹ホールにて簡単な体操やゲームを行い、お菓子を食べながらおしゃべりを楽しんでいます。真庭政所合同班は20年以上続く班会で、毎月第3水曜日にラジオ体操や脳トレ、モルックなどゲームをしながら楽しんでいます。年2回程は職員も参加して体操や学習会などを一緒に行っています。また、後閑グラウンドゴルフサークルは月4～5回程、後閑多目的ひろばにて定期的にグラウンドゴルフを楽しんでいます。

後継者問題や高齢化の不安もありますが、私たちの活動が70年前の創立時に力を注いだ人々の思いと理念を受けつぎ、次世代に渡すよすがになってくれることを願っています。

（執筆：理事 藤原 京子）



まちかど健康チェック



真庭政所合同班「モルック」

月夜野西支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：72班

組合員数：1,263人

支部長：鈴木 初太郎

■活動内容

月夜野西支部は現在、理事・総代・運営委員合わせて14人で活動しています。

役員になったら「活動の中心は人のあつまり班会だ」と教えてもらいましたが、下津・上津地域では活動ができなくなってしまいました。橋下・橋上地域は歴代の役員さんにより何十年も前から毎年定期的で開催され、通常総代会で表彰されたりしたことは精力的な生協活動があったからだと思っています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となって以降は再開が難しくなってしまう、残念でなりません。

みなかみ歯科虹ホールで運営委員会を開催。「役員で考え、組合員にお願いする」としてグラウンドゴルフ、カラオケ大会、月夜野七福神めぐりなど、人の集まりを計画しました。中でも月夜野七福神めぐりは参加者の満足度も高かったように思います。

また、毎年が生協強化月間では生協みなかみ歯科職員と連携し、たくさんの地域訪問を行ってきました。職員の方も必ず参加してくれて、支部役員、職員がみんなで協力した甲斐もあり、毎年好成績で表彰されていました。新たな支部役員体制になってからも慣れない委員の役を受け継いでくださり、地域訪問や機関紙配布にも積極的に取り組んでくれています。

最近ではコロナ禍も落ち着いてきたため、支部役員との交流を目的に運営委員会後にわなげゲームも行いました。今後もいろいろな企画を計画しながら、みんなで活動していきたいと思っています。

(執筆：運営委員 田村 昌弘)



月夜野七福神めぐり(2022年10月)



わなげ交流会(2025年8月)

水上支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：88班

組合員数：1,226人

支部長：木村 久子

■活動内容

水上支部は旧水上町全体が区域の支部となっており、藤原・粟沢・綱子・幸知・湯檜曾・大穴・鹿野沢・小日向・高日向・小仁田・川上・寺間・湯原・阿野川・谷川の15地域に1,224人の組合員が加入しています。

水上支部運営委員会は1カ月に1回(冬場やイベントがある場合は2カ月に1回)開催しています。いつも10~14人以上が出席し、会議の中では皆さんから活発な意見が出されています。

また支部のイベントとしては年に2回、春と秋に「利根の保健」の配布者間の交流を図るために健康お楽しみ会を開催しています。配布者はもちろん一般の地域組合員も参加できるように、イベント開催時は支部役員が近所の方に参加の呼びかけを行っています。その甲斐もあり、いつもたくさんの方にお集まりいただいています。健康お楽しみ会は毎回20~30人程の方にご参加いただき賑やかな交流会となっています。恒例の健康チェック(体組成測定、握力測定、足指筋力測定)を行った後はわなげ大会をしています。直近では組合員の方よりハーモニカ演奏をしていただき、みんなで歌を歌いながら楽しむことができました。お越しただけた方全員にお土産があり、参加者からは毎回喜ばれています。

待ち時間を使っては脳トレを兼ねたクイズも出題し、参加者からは「難しいね」「これは分かる！」などの感想も出され、体と頭を使った楽しい時間を過ごすことができました。

お楽しみ会の開催時には増資の窓口を設けて、受付時に出資金の呼びかけも行っています。参加者の皆さんにはいつもご協力いただきとても感謝しています。

またSDGs宣言の取り組みとしては、運営委員会やお楽しみ会の際に「ペットボトルキャップの回収」を呼びかけています。「継続は力なり」ということで5年以上キャップ回収を実施しています。集まったキャップはみなかみ町社会福祉協議会まで持ち込み、貧しい方のワクチン接種に利用されています。私たちができる小さなことが継続してやることによって少しでも社会の力になればいいなと思っています。

これからも支部、地域の皆さんと協力しながら元気に楽しく活動を続けていきたいです。

(執筆：副支部長 眞庭 大策)



待ち時間を使って脳トレ中



ハーモニカ演奏に合わせてみんなで歌唱

猿ヶ京支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：28班

組合員数：431人

支部長：林 誠行

■活動内容

当支部は、総代・理事あわせて6人で運営し、生協の中では小さい方から2番目の支部です。班会開催や諸活動でも際だったとりくみが行われていないのが実情です。

数年前から各支部で始まった「わがまち探検&クリーン大作戦」。私たちも、5年前から観光地の一つ、相俣ダム湖周辺の遊歩道のごみ拾いを始めました。このダム湖、1959年に完成し、洪水調節と首都圏の水瓶、水力発電を行っています。ダム完成当初は猿ヶ京温泉として賑わっていましたが、最近ではチョット寂しい観光地となっています。

運営委員の一人が民泊を経営しております。2024年春、「この夏、東京の中学生数人が、『三泊四日の生活体験』で来る、一緒にごみ拾いに参加させたい」という発言があり、「若い人との交流、良いね」「やってみよう」と始まりました。初回は、他の関係者から「猿ヶ京で面白そうな事を考えた」と、バス1台、6班で約40人を受け入れることになりました。空模様も悪く短時間、縮小し緊張してのとりくみでした。2025年も民泊受け入れ者に呼びかけ、4カ所から中学2年生25人と引率の先生方、民泊受け入れ家主4人と支部役員ら5人、他の支部からの支援で総勢40人余。2組に分かれて約1kmずつ、30分程の行動を行いました。引率者の会話からは「大々的にやってくれるね」「うん、驚いた」等との声が聞かれました。

作業後、環境問題に携わっている方に、周囲の自然環境、イヌワシ、クマタカ、猿、熊などの状況の話。各民泊の家主からのアピールや自分たちが子ども時代の思い出等、「久しぶりにダム湖が歩いて良かった」などの感想が出されていました。生協くらしサポートセンターの職員からは「いなかの医療についても関心を持ってもらいたい」「医療職に興味のある人は、実習に来て」等と訴えました。

生徒からは「ごみ拾いを通していろいろな事を教えてもらいました。ありがとうございました」との声が寄せられ、約2時間の交流を終えました。

今後も、地元受け入れ団体・学校関係者と協議しながら継続して行ければと思います。

(執筆：支部長 林 誠行)



ごみ拾いウォーキング
(2025年7月)

須川支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：35班

組合員数：588人

支部長：甲斐 陽子

■活動内容

須川支部地域も年々高齢化が進んできており、小学校、中学校の統合など子どもたちの数も減少してきています。ですが、そういう地域の中でもどのようにしたら組合員の健康生活を守れるか、参加しやすいイベントができるかなど、様々な行事を計画・相談しながら支部活動に取り組んでいます。

毎年、春と秋には「たくみの里」周辺でごみ拾いウォーキングを行っています。ごみ拾いしながら、歴史の深い熊野神社に立ち寄り、神社の歴史に詳しい組合員さんの説明を受けながら休憩をとっています。また江戸に向かう三国街道の武士が休息に使ったという「旧大庄屋役宅書院」にて立派な襖絵などの説明を聞きながら見学させていただき、郷土の文化に触れ、運動と教養で有意義な時間を過ごしました。

また毎年12月には健康クリスマス会を開催しています。恒例となった血压測定、握力測定等の健康チェックのあとは、クリスマスツリー作りや地元で伝わる民話や紙芝居、手品披露など地元の先生をお招きしながら地域の人たちが楽しく参加できる企画となるように毎年内容を変えて開催しています。クリスマス会の最後にはみんなでケーキを食べながらおしゃべりをし、お土産を渡して解散。近所にいてもなかなか顔を合わせてゆっくり話すことが少なくなった仲間とのおしゃべりは地域の皆さんにとっても貴重な時間となっているようです。

これからも「孤立を無くしてみんなで見守る社会」を目指して取り組んでいけるよう、みんなで力を合わせながら頑張っていきたいです。笑いとおしゃべりは健康寿命を延ばします!!

(執筆：支部長 甲斐 陽子)



健康クリスマス会(2024年12月)



ごみ拾いウォーキング(2025年5月)

新巻支部

■支部現勢（2025年12月末）

班数：46班 組合員数：903人 支部長：林 和枝

■活動内容

班会が大きな盛り上がりをもせた80年代を経て、生協活動がもっと身近に感じられるようにと新治支部を3分割(2014年)して誕生した新巻支部は、旧新治村の南東部にあたる旧新巻小学校区を活動区域としています。

分割後は顔の見えるきめ細やかな活動に力を注いできましたが、2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症による活動の自粛に加え、少子高齢化と人口減少という今まで経験したことのない課題にも直面し、これらが支部活動にも大きな影響を与えています。

こうした中でも支部役員が特に心がけていることは、生協と組合員をつなぐ機関紙「利根の保健」をほぼ全域で配布すること、生協強化月間に合わせた地域訪問では、誰がいつどこに訪問するかを決め病院職場(4A病棟)と連携のうえ、組合員の声に耳を傾け生協の魅力を伝え増資をお願いすることです。

また、地域の魅力に触れ組合員相互の交流も大切にしようと「わがまち探検&ごみ拾いウォーキング」を猿ヶ京支部、須川支部と協力して3支部合同で企画し、参加者から「地元に住んでいるけれど知らなかった」と喜ばれています。

新たな取り組みとして、組合員が亡くなったときは自宅を訪ね弔意を伝え、名義変更等の手続きを依頼する「お悔み訪問」を実施しています(2025年6月～)。

今後も、仲良く楽しみながら支部の運営、生協行事への参加、課題の克服に取り組み、一年を通じた地域訪問や組合員が気軽に参加できるイベントを企画し「健康をつくる。平和をつくる。こころ豊かなまちをつくる。」を意識しながら生協運動を前に前に進めたいと思います。

(執筆：理事 森下 佐太夫)



わがまち探検&ごみ拾いウォーキング
太助の郷、但馬院、徳巖寺を訪問
(2024年11月)



支部忘年会でのすこしおカルタ大会
(2024年12月)

利根保健生協年度別現勢

年度	組合員数	出資金額	平均出資金額	備考
1954(昭和29年)				
1955(昭和30年)				
1956(昭和31年)				
1957(昭和32年)		310,000		
1958(昭和33年)	600	314,200	524	
1959(昭和34年)	2,500	321,300	129	
1960(昭和35年)	3,649	330,100	90	
1961(昭和36年)	5,294	361,800	68	
1962(昭和37年)	6,482	374,800	58	
1963(昭和38年)	6,771	381,500	56	
1964(昭和39年)	8,043	395,500	49	
1965(昭和40年)	8,893	405,500	46	
1966(昭和41年)	9,594	426,300	44	
1967(昭和42年)	9,892	540,300	55	
1968(昭和43年)	10,315	670,700	65	
1969(昭和44年)	10,560	691,400	65	
1970(昭和45年)	11,076	747,000	67	
1971(昭和46年)	11,398	786,700	69	
1972(昭和47年)	11,999	962,300	80	
1973(昭和48年)	12,454	1,265,000	102	
1974(昭和49年)	13,353	1,842,800	138	
1975(昭和50年)	14,013	27,618,000	1,970	労生協より利根保健生協への書き換え数
1976(昭和51年)	9,847	44,032,000	4,471	
1977(昭和52年)	10,863	72,094,000	6,636	
1978(昭和53年)	11,623	96,430,000	8,296	
1979(昭和54年)	12,617	116,462,000	9,230	
1980(昭和55年)	13,892	134,593,000	9,688	
1981(昭和56年)	14,818	152,262,000	10,275	
1982(昭和57年)	15,798	196,368,000	12,429	
1983(昭和58年)	16,404	219,650,000	13,390	
1984(昭和59年)	16,976	247,089,000	14,555	
1985(昭和60年)	17,603	283,186,000	16,087	
1986(昭和61年)	18,231	329,558,000	18,076	
1987(昭和62年)	19,116	368,313,000	19,267	
1988(昭和63年)	19,608	399,572,000	20,498	
1989(平成1年)	20,203	428,182,000	21,193	
1990(平成2年)	21,082	470,425,000	22,314	
1991(平成3年)	21,892	509,288,000	23,263	
1992(平成4年)	22,561	547,377,000	24,259	
1993(平成5年)	23,216	592,407,000	25,517	
1994(平成6年)	23,791	639,129,000	26,864	
1995(平成7年)	24,293	676,003,000	27,827	
1996(平成8年)	24,656	709,590,000	28,779	
1997(平成9年)	24,948	718,970,000	28,818	
1998(平成10年)	25,304	768,361,000	30,365	
1999(平成11年)	25,577	816,226,000	31,911	
2000(平成12年)	25,682	848,554,000	33,039	
2001(平成13年)	25,752	881,105,000	34,215	
2002(平成14年)	25,805	931,908,000	36,113	
2003(平成15年)	25,757	982,647,000	38,127	
2004(平成16年)	25,802	1,033,792,000	40,066	
2005(平成17年)	25,884	1,093,788,000	42,257	
2006(平成18年)	25,995	1,148,526,000	44,182	
2007(平成19年)	26,078	1,186,791,000	45,509	
2008(平成20年)	26,175	1,206,359,000	46,088	
2009(平成21年)	26,222	1,211,655,000	46,207	
2010(平成22年)	26,280	1,220,925,000	46,458	
2011(平成23年)	26,484	1,240,698,000	46,847	
2012(平成24年)	27,133	1,289,355,000	47,519	
2013(平成25年)	27,830	1,376,962,000	49,477	
2014(平成26年)	28,328	1,458,660,000	51,491	
2015(平成27年)	29,114	1,521,629,000	52,265	
2016(平成28年)	29,773	1,572,536,000	52,818	
2017(平成29年)	30,317	1,621,442,000	53,483	
2018(平成30年)	28,588	1,629,226,000	56,990	
2019(令和1年)	29,059	1,648,680,000	56,736	
2020(令和2年)	29,026	1,653,661,000	56,972	
2021(令和3年)	29,229	1,650,374,000	56,464	
2022(令和4年)	29,117	1,633,065,000	56,086	
2023(令和5年)	28,688	1,605,040,000	55,948	
2024(令和6年)	28,258	1,555,850,000	55,059	

編集後記

利根保健生協は、創立70周年という節目を迎えました。戦後の厳しい時代に、「誰もが安心して医療を受けられる地域をつくりたい」という願いから始まった私たちのとりくみは、主人公である組合員をはじめ、職員、そして地域の皆さまの支えによって、今日まで受け継がれてきました。

編集作業を通じて、時代ごとのさまざまな課題に向き合いながらも、「いのちとくらしを守る」という理念を大切に守り続けてきた歴史を、あらためて実感しました。医療や介護を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、その理念は揺らぐことなく、現在の活動へと確かにつながっています。

70年の歩みは、次の未来へとつながる新たな出発点でもあります。本記念誌が、これまでの歴史を振り返るとともに、これからの利根保健生協の歩みを前進させてゆく一助となれば幸いです。記念誌の制作にご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

記念誌作成メンバー 一同

記念誌作成 メンバー

■ 常勤理事会

原澤裕、山田晃章、井本光洋、小林淳一、武井友一、布施正子、
関原正夫、中澤桂一郎、松井信也

■ 生協くらしサポートセンター

大嶋宏二、金井美江、小池未歩、小林義男、星野なほ子

■ 病院総務課

大野秀彰

一人は万人のために、万人は一人のために
それがわたしたちの合言葉です。

創立70周年記念誌「地域に根ざして」

2026年2月28日 発行

編集・発行 利根保健生活協同組合

〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1861-1
TEL 0278-22-6060 FAX 0278-22-6262

制作 有限会社コトブキ印刷

〒378-0011 群馬県沼田市上沼須町659-2
TEL 0278-22-5400 FAX 0278-22-5732

利根保健生活協同組合

